

We went to CANADA to meet my friends.

(友人たちに会いにカナダへ行って来ました) ~第3章(ハプニングは続く)~

No.37 鷺海拓也

7月21日(金曜日)

急遽、現地で予約したバンクーバー中心街のホテルに宿泊。近くでコンビニとリカーショップを見つけて部屋での食事となる。空港での荷物の受け取り時間が予測できないので、1泊後に余裕をもって午前中の「水上飛行機」に搭乗するためである。

私達の宿泊したホテルの部屋には、やたらと「ジョン・レノン」と「オノ・ヨーコ」の写真が飾ってある。以前にこの部屋を利用したことがあるのだろうか？

7月22日(土曜日)

この日は11時の「水上飛行機」なのだが、空港近くの発着場が分からないので早めにチェックアウト。

「バンクーバー空港」に移動して「インフォメーション」で尋ねるが「パシフィック・シープレーン」は知らないと言う。確かにローカルな会社だった。その担当の女性はわざわざ空港の前まで私達を案内して、乗客を降ろしたばかりのタクシーに尋ねてくれている。有難い。

「シーエアー・シープレーン」の発着場を共同利用している。なので、ここに着いても私達の予約を把握するスタッフは一人も居なかった。なので、どの飛行機なのかを確認するだけだった。

11時に予定通りにその飛行機が着水。乗り降りする「棧橋」に行く必要があるかと何度も確認するが「ここでまっていれば大丈夫」と…。しかし「予約手続き」が完全でなかった私達は機内に案内される事もなく残されて、飛び立って行ってしまった。

この発着場に結局、7時間も居た事になる。最後には、見かねたスタッフが「オリジナルキャップ(約3千円)」をプレゼントしてくれた(写真参照)。

15時15分の飛行機にて「ナナイモ」に無事到着。道路閉鎖が解除されたのでジニーが息子のピーターと迎えに来ているはずだったが、姿が見えない。早く到着したとの事で近くの店に居たらしい。合流後は彼女の家のある「ポートアルバーニ」に向かうが、途中「ウォーキング」と言う事で「イングリッシュマン・リバー・フォールズ州立公園」を気持ち良く散策。

その日の夕食は庭でBBQ。広い庭は、芝がきれいに手入れされていた。聞くとお父さんが手入れしてくれるとの事だった。ピーター(9歳)が焼いてくれた肉類は美味しかった。

7月22日(日曜日)

9割ほどが森林のこの島のアクティビティは、自然と戯れるしかない。最初に鮭が遡上する川

「スタンプリバー州立公園」を散策。鮭を捕獲するクマが見れるかもとの事だったが、見れなくて良かった(笑)。

「ワイルドパシフィックトレイル」(ウクルーレット)

全長8kmの海岸沿いのトレイル(小径)。片道 3.5kmだけを往復して、海風を感じながらの「森林浴」を楽しむ。その後、近くの「リゾートホテル」のレストランで昼食。どこに行っても必ず「フレンチフライ(フライドポテト)」が添えてある。私達は、これだけで満腹感を感じてしまう。

「ロングビーチ」

今日の最終目的地に向かう途中、この海岸を散策。気温が低い(10度)が、「ウエットスーツ」を着てサーフィンを楽しむ人たちがたくさんいる。全長 16kmにこの海岸は「サーフィン」の名所らしい。流木を見つけて持ち帰ろうとすると、スタッフに止められてしまった(笑)。

「トフィーノ」

今日の最後の観光地の「トフィーノ」。雑貨店、個人の美術館、寿司バーなどがあり観光客も多い。ここでの散策を済ました時の時間が午後4時。ジニーの自宅のある「ポートアルバーニ」までは車で2時間。ここで食事をするか、地元でレストランに行くか、デリバリーを注文するか、帰りに何かを買って帰るかの4択を聞かれた。私は途中で何かを買って、家でゆっくりしたいと希望する。途中、「寿司ボウル(丼)」のお店に寄った。黒板にはぎっしりと食材が書かれてある。見ても分からない地元の食材もあり、無難に Yellow Fin(キハダマグロ)、Salmon(サケ)、Shrimp(エビ)、Cucumber(きゅうり)、Corn(とうもろこし)、を Say Sauce(しょうゆ)で注文する。思ったよりも酢飯も味が良くて、おいしくいただきました。

7月 23 日(日曜日)

「バンクーバー島」の最終日。朝食の時にピーターが焼いてくれたカリカリのベーコンの味が忘れられない。帰国後にこのベーコンにハマって「痛風」を発症してしまった。最近、贅沢をして本物のビールを飲んでいた事も一因である(のどごし生: 1.8mg/一番搾り 8.8mg、「プリン体」含有量の差)。最初、右足の親指の付け根が痛みと同時にきれいなピンク色になった! 結局、7日間走る事が出来なかった(涙)。

ジニーの自宅から10分ほどの「スポーツレイク(湖)」から「バンクーバー」へ戻る水上飛行機を、今回は前日にジニーに予約してもらった。その時に「クレジットカード」の情報なども伝えていた。そう言えば、私が予約した時はこの情報を伝える前に自分が電話を切ってしまった気がする(涙)。

当日はあいにくの「雨模様」。飛行機は高度を上げずに飛行するので、霧や気流の影響で飛ばない事も多いと言う。気が気ではない。何度も電話で「飛行状況」を確認してくれている。待望の飛行機が「湖面」に着水して、ジニーは安心した笑顔でピーターと見送ってくれた。



この「帽子」もらっちゃったもんね!



「ワイルドパシフィックトレイル」



「私が注文した海鮮丼」



「ピーターが焼いてくれたベーコン」



「スポルトレイクに着水した水上飛行機」